

鉄道会社による宗教文化の資源化に関する試論

: 観光人類学の視点から

A Case Study of the Utilization of Religious Culture as Resources by Railway Companies: from the Perspective of Anthropology of Tourism

濱 雄亮

Yusuke Hama

要旨

本稿は、鉄道会社による宗教文化の資源化の現状を分析する試論である。まず、鉄道会社による宗教文化の資源化の歴史が鉄道の草創期に遡ることを確認した。続いて、関東地方の大手民鉄3社の例を挙げ、鉄道会社による宗教文化の資源化の特徴として、歴史的蓄積への立脚、社外との信頼関係の相乗効果への期待、遠心的資源化と求心的資源化の存在を明らかにした。加えて、「沿線」という意識の存在が、他のアクターによる文化の資源化との差異であると指摘した。最後に、今後の課題として、網羅的調査や外国との比較の必要性を挙げた。

キーワード: 文化の資源化 沿線文化 聖地 観光人類学